【From Kobe 2019年2月 如月 】 節分・立春の候 春迎え

● 春の足音 すくそこまで 春が・・・・・







2019年 2月如月 春迎え 福は内 鬼も内 春はもうそこまで、北風小僧に負けぬよう

## 収録:

- 1. 日本各地に伝承されている鬼 鬼にされた愛すべき仲間の鬼たちに思いを寄せて
- 2. 朝日デジタル 最近の縄文の捉え方に警鐘をならす編集委員・宮代栄一氏の記事

「縄文=ユートピア」はホント? 食料争奪の可能性/森林破壊も 2019 年 1 月 15 日 11 時 00 分 「格差も戦争もない」本当? 縄文時代、見えてきた実態 2019 年 1 月 31 日 11 時 00 分 最近語られる「エコロジカルな縄文人」とのイメージについて、違和感を抱く

この記事に接して Iron road 縄文発信の私の思い











毎日寒い日が続きますが、元気な声が街を駆けてゆく

北風小僧に負けないで 春遠からじ









1. 日本各地に伝承されている鬼 鬼にされた愛すべき仲間の鬼たちに思いを寄せて



この季節になると毎度ながら、「鬼」が気になる。「鬼」は自分たちとは異なる集団を「鬼」として排除してきた 遠い昔の名残り。そんな中に「鬼」とされた古代の製鉄集団もいたという。

「開拓神」となった鬼 在地の衆に災いをもたらすとして退治された鬼。

「災いをもたらす」として恐れられたが接触が続く中で仲間となった鬼もいる。

「いつも一生懸命働きながら 騙されて退治される」そんな「仲間の鬼」が日本各地で語り継がれてきた。 また、災いをもたらす鬼が退治・改小して、神に従う鬼・神の化身となって災いを追い払う鬼もいる。

「鬼は外に福は内」と言いながらも、うちでは鬼に感謝し、憎めない。 「地球上に生きとし生けるもの みな共生する仲間」

そんな愛すべき鬼たちに「縄文の心」「日本人の奥深い心情」を見る。 日本人の小の原点「共生」が、ここでも培われてきたと。

## \*\*\*\*\*「鬼にされた愛すべき仲間の鬼たち」の鬼伝承やことわざ \*\*\*\*

◎「仲間としての鬼」- 鬼にされた たたら製鉄集団 -

http://www.infokkkna.com/ironroad/2014htm/iron10/1402oni00.htm

◎「日本各地の鬼伝説」和鉄の道・Iron Road 掲載リスト http://www.infokkkna.com/ironroad/2013htm/iron9/13iron01list.pdf

◎「日本人の心の故郷「縄文」

http://www.infokkkna.com/ironroad/2015htm/iron11/ivomonslide.htm

一万年も平和で豊かな生活が続いた時代 世界に類のない日本の「縄文」 そのエンジンは「他人を思いやる小」

日本人の心の故郷「縄文」北東北・北海道の縄文遺跡をユネスコ世界遺産に

#### 鬼にされた阿弓流為・アテルイのこと ■ 東北の「鬼」

幾度となく訪れた東北の各地で、「蝦夷」と呼ばれた時代の人たちへの強い愛着と近親感に出会って、 強烈な印象と新鮮な驚きを受けました。この時期「鬼」の話になるといつも気になる東北の「鬼」。

## 「あの高嶺 鬼住む誇」 音の瀬音 久遠の賛歌

この大地 燃え立つ命ここは北上」 北上市 市民憲章より

http://www.infokkkna.com/ironroad/2008htm/walk5/0802oni00.htm



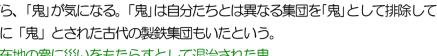




奈良元興寺の厄除鬼「がこば」「鬼は内 福は内



春迎え 2019 「福は内 鬼も内」



## 2. Iron Road の出会いの中で 気にかかる縄文のこと

朝日デジタル 最近の縄文の捉え方に警鐘をならす編集委員・宮代栄一氏の記事

「縄文=ユートピア」はホント? 食料争奪の可能性/森林破壊も 2019 年 1 月 15 日 11 時 00 分 「格差も戦争もない」本当? 縄文時代、見えてきた実態 2019 年 1 月 31 日 11 時 00 分

最近語られる「エコロジカルな縄文人」とのイメージについて、違和感を抱く

この記事に接して Iron road 縄文発信の私の思い

最近 朝日デジタルに立て続けに、上記のような見出しで、「縄文」プームの中、その捉え方に警鐘を鳴らす記事が掲載された。home page Iron Road・和鉄の道で「縄文」について 発信している私にとっても、しっかり受け止めねばならぬ警鐘 記事を紹介するとともに、

「縄文」に対する私の思いについて 書き記しました。 詳細は省きますが、記事を読み、私の受け止めとして 抜き書した骨子は次の通り。



### ■ 2019年1月15日11時00分

## 「縄文=ユートピア」はホント? 食料争奪の可能性/森林破壊も

「縄文」が注目を集めている。 東京国立博物館で昨夏開かれた「JOMON」展は35万人を動員。 ネットなどでは「格差も戦争もない」「自由でエコロジカル」といった、 理想郷のような見方も広がる。 最近の研究から、縄文時代の「本当の姿」を考えてみる。

「もし、自分が『縄文時代に暮らしてみませんか』と聞かれたら間違いなく断ると思いますね」と県立郷土館の岡本洋 学芸主査は話した。

「縄文の人々は火を放つなどして集落周辺の森林を切りひらいていたが、当時は自然破壊より自然の復元力がまさっていたので、回復していた。 現代的な意味で、彼らが環境に優しい暮らしをしていたとは言えないと思います」

#### ■ 2019年1月31日11時00分

## 「格差も戦争もない」本当? 縄文時代、見えてきた実態 との掲載記事

最近語られる「エコロジカルな縄文人」とのイメージについて、違和感を抱く

「発掘調査の結果、津軽平野などの集落の集中場所では、集落の存続期間が短いものがあることがわかってきた。 食料が尽きると、新たな資源を求めて集落自体を移転させていたと考えられるという。

木の実を保存して通年の主食とした一方、大型獣からカエルまであらゆるものを食べて飢えをしのいだ。

決して豊かな時代ではないんです。 最近語られる「エコロジカルな縄文人」とのイメージについて、

国立歴史民俗博物館の山田康弘教授は「違和感を抱く」と語る。

縄文時代の人口は少なく、最多の時期でも日本列島全体で26万人程度(人口密度で1平方キロあたり0.7人)にすぎなかった。「縄文の人々は火を放つなどして集落周辺の森林を切り開いていたが、

当時は自然破壊より自然の復元力がまさっていたので回復していた。

現代的な意味で、彼らが環境に優しい暮らしをしていたとは言えないと思います」

近年は縄文好きのアマチュアが出す解説本も多い。

阿部教授は「必ずしも理詰めで書かれていないが、専門家の本よりとっつきやすいのかもしれない。

一般の人とを結ぶ役割を果たしてくれれば」と期待しつつ、「理想郷」のイメージが再び拡散することを危ぶむ。

読んだのはデジタル版の抜き書きで、意が十分伝わったかどうか、気になりますが、 論旨はおおむね上記の通りです。 私も和鉄の道・Iron Road の中で「縄文帰りの勧め」「日本の心の故郷 縄文」「一万年も平和で豊かな生活が続いた世界に類のない日本の「縄文」社会 そのエンジンは「他人を思いやる心」だった」と何度も掲載しています。また、私にとって この2月はいつも今の暮らしや我々のルーツに思いをはせる時期でもあり、自分自身の縄文に対す

る認識と思いを発信しておかねばと考えてこの文を書いています。

私も縄文の暮らしはこの朝日デジタルの記事の通り、 過酷で厳しい自然環境の中での生活だったことには異論ありません。 「縄文は厳しい暮らし」であり、「あんのんとした平和で豊かな暮らしが続いた」との認識はなし。 この厳しい暮らしの中で「共に生きる」の暗黙のルールの中で生き抜くことが出来たのが縄文だと。 現代人の暮らしをそっくり縄文に移入するかのような、そこで暮らすなどと持ち出すことこそがおかしく、 仮想現実の持ち込みだと。

ところが、今の高度情報社会の行き過ぎの中で、現実をと仮想現実の境が無茶苦茶に混同破壊され、 その悪癖がそのまま我々の生活にも影を落としているのも事実。

だからこそ なおさら 遠く離れたルーツまで遡り、社会を見つめることに大きな意義があると考えています。 地球環境が激変する時代に生きる中で、格差・対立が激化し、戦争・核の脅威が日増しに高まる厳しい現実。 「あんとんとひとまかせ」の仮想現実にしがみつくなどできないとの不安がよぎる。

厳しい環境と苦難に何度も遭遇しながらも命をつなぎ、生き延びてきた人類

そして 1 万年の長き持続社会を繋いだ世界に誇る日本の縄文。

その「key」は何か????? 「相手を思い、助け合う共生 それが知恵・活力となり、永続の原動力」だという。 「人類・縄文」を持ち出さなくても 近くは原爆・大震災。そして日々の暮らしの中にもその証拠はいくつも見つかる。 だが、今の社会ではそれがストレートに出せない現実がある。

そんなこともあたまにあって、バーチャルでなく自分の目で、 縄文が共有してきた理念・文化そして生き様を語り合い たいと「縄文帰り」「日本の心の故郷縄文」と呼びかけている。

世界に類のない日本の「縄文」そのエンジンは「他人を思いやる心」

# 北東北・北海道の縄文遺跡を ユネスコ世界遺産に 2019.2.3. 節分 縄文に思いをはせて Mutsu Nakanishi







春はもうすぐそこまで 仲間がいる 仲間の元気を活力に!! お互い 無理せず元気に前向いて 今日も一日 Good Day! まだ好奇心もある 我が身の健康に感謝しつつ、また 一年 互いスクラム組んで 前むいて 老いを笑顔で 2019.2.5. Mutsu Nakanishi from Kobe





